

指定校番号	31003	学級活動	○	児童会活動	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	---	-------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立平良小学校	校長	谷本 直子	生徒指導主事	中本 智和
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『児童が主役になって取り組む委員会活動で自己有用感を育てる』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「課題発見・解決力」	1	「主体性」	3	「自己有用感」	2

取組のねらい

各委員会の児童に「学校全体をよりよくしよう」と思えるような取組の場を設定することで、児童の主体性や課題発見・解決力を育みたい。また、その取組を児童同士で評価し合いながら自己有用感を高めたい。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『児童のアイデアで学校の課題を解決』
----------	-------------------------------

<p>生活委員会</p> <p>学校全体がピカピカになるように取組を行った。</p> 	<p>きれいに掃除ができるように「コの字ぶき」や掃除ロボットの整頓の仕方など、ポイントを押さえた動画を撮影し、それを各学年に見せながら呼びかけた。生活委員会の児童が掃除の様子を見て回り、評価も行った。</p>
<p>児童運営委員会</p> <p>「挨拶がんばり週間」「あいさつライン」の取組を企画し、実行した。</p> 	<p>「挨拶がんばり週間」の取組では、委員会の児童が、事前に各学年に挨拶のポイントを伝えた。2週間の期間を設け、登校時に校門に立ち、挨拶のお手本を見せた。また、挨拶が素晴らしい児童を見付け、全校朝会でその児童を表彰した。「あいさつライン」の取組では、教室の入口にテープでラインを作り、そこを跨ぐ時には、必ず挨拶をしようと全校に呼びかけ、意識させた。</p>
<p>保健委員会</p> <p>朝会で「ゲームと睡眠の時間に気を付けること」について全校に呼びかけ、チャレンジアウトメディア週間で頑張った学級を表彰した。</p> 	<p>児童にゲーム時間などのアンケート調査を行い、実態を把握した。その上で、長時間ゲームをすることが、成長している自分の脳や体に良くないという科学的根拠を図書資料から調べ、分かりやすく全校朝会で発表した。また校内に児童が作った啓発ポスターを掲示した。</p>

取組の成果(○)と課題(●)

- 児童アンケート「みんなの生活をよりよくするため、進んで行動しています。」の肯定的評価が昨年度85%だったのに対し、今年度89%であり、積極的に生活をよりよくしようと考え、行動する児童が増えた。
- 積極的にアイデアを出したり、工夫しようとしたりする児童の様子を見ていると、「自分の力が学校のために役立っている」という満足感を味わっている様子が見られた。
- 各委員会の活動に対する感謝の思いやメッセージを各学年からもらい、掲示した。温かい言葉のメッセージをもらい、児童の委員会活動へのモチベーションがさらに高まっていたようだった。
- どの委員会の児童も休憩時間を使いながら活動することが多く、行事が重なった時などは負担になるところがあった。